

需要の激減とともに供給の目詰まりが大きな問題になりました。

海外からの調達に難しくなるとともに、従来のサプライヤーが倒産したり、

サプライヤーのリスク分散のため新たな調達先が必要になったりなど、

急激な変化

が起きています。

それは急に量産部品を調達しなければならぬという切迫感と表裏一体です。

ここに重大な困難があります。そんなすぐに部品量産はできないからです。

こうして大きな壁に直面することになります。

そのような窮境においては、試作から量産をいかに短期で立ち上げるかが重大な鍵を握ります。

そこで、弊社ではこの度、

「超短期立上げ」

に特化した体制を構築いたしました。

従来から、臨時的な対応で量産までの短期化を行うことはありましたが、

弊社もそうした臨時対応を何度となく経験してきました。

そこで「超短期立上げ」のための専門の体制を構築し、

超短期立上げ

「量産最速立上げプログラム」

を開発し、

提供させて頂いていただくことになりました。

このプログラムは、過去の短期立上げ経験の研究により定式化した

「量産立上げ重点4領域」を基本に、

それを効果的に組合せる「総合プロデュース力」で期間を圧縮する仕組みになっています。

これにより、**最短期での量産化を常に安定的に提供**できるようになりました。

また、短期立上げは部品の種類や加工条件に大きく左右されます。

そこで弊社ではどのレベルまで超短期立上げが可能か簡易診断を行うため、

アセスメントシートを開発しました。

「量産立上げ重点4領域」

をもとに

短期立上げの可能性を診断することができます。

急な量産部品の調達に苦闘されている企業様には、ぜひ弊社にご相談いただけたら幸いです。

NADAKA
CORPORATION

2年かかるはずの量産立上げ。 3ヶ月でやり遂げました。

総合プロデュース力 (完結力(=自社完結力+ネットワーク力)+協創力+細部技術)

制約条件

● どれだけの範囲を依頼されているか(材料含めか、切削だけか等々)

- 立上げ時期
- 素材
- 形状
- 当社経験済素材
- 数量
- 納入先(どこに納入するか)
- 工程の多さ

顧客にお願いすること

- 早期参画
- 高頻度の打合せ
- 条件見直し
 - ・ 材質変更
 - ・ 加工方法変更
 - ・ 過剰精度修正
 - ・ 製品や素材の寸法変更
 - ・ 素材熱処理
 - ・ 工法と工程変更提案
 - ・ ネックになる寸法や形状の変更
- 量産へ向けた試作時課題対応

超短期立上げに 特化した体制を 構築

当社でやること

- 切削(旋盤、複合旋盤、マシニング)
- 研磨
- 組み立て
- 工程設計
- 品質書類作成
- 自社治具設計・製作
- 工具選択・管理
- キリコ処理(ブレーカー等々)
- 段取り替え(豊富な設備)
- ロボット活用
- 試作から量産まで一貫生産(協力工場充実)
- 経験
- 最適地(日本かタイか)
- 協力工場協業

当社の体制

- プロデューサーを育てる
- 設備稼働状況即時把握
- 人員体制即時判断
- 細部技術力の向上
- 協力工場の充実
- 機械新設
- ドキュメント化

がんばって短期立上げに対応するところはあると思います。
でも、「量産最速立上げプログラム」を開発したところはありません。
名高精工所は、常に安定的に「最速立上げ」にお応えできるようになりました。

NADAKA
CORPORATION

株式会社 名高精工所
〒611-0041 京都府宇治市槇島町中川原28

<http://www.nadaka.jp/>
TEL. 0774-22-6784(代)

sales-jp@nadaka.jp
FAX. 0774-22-6484



地域未来牽引企業